

ボード会議議事録

外部評価としてのまとめ

日 時:令和 7 年 12 月 10 日(水) 15:30－18:30

場 所:先端研 4 号館 2 階講堂(ZOOM 併用)

出席者:

【ボードメンバー(敬省略)】

浅川、小泉、澤、土井、中島、久元、増田、武藤各委員

【先端研】

杉山所長、岩本、稲見各副所長、近藤(武)、角野、中井、廣井、星野、伊藤各教授

近藤(高)、牧原各オブザーバー

小枝事務長、中村室長、湯本特任教授

議事に先立ち議長選出が行われ、杉山所長から土井委員が指名され承認された。

【報告事項】

1. 杉山所長から、資料に基づきプレゼンテーション形式にて、これまでに行ってきた先端研の事業報告が行われた。
その後ボードメンバーから、先端研の現状を踏まえて、組織運営、教育研究活動等に対する意見、助言が出され、今後の課題として検討することとなった。
なお、以下は各評価項目に対するボードメンバーからの意見を集約したものである。

I. 評価項目

	項目	助言、評価の内容
1	研究力	学際的な協働を基盤とし、社会的価値の創出を重視した先端的研究が深化している点を評価する。知性と感性の統合、専門性の異なる研究者の協働による新たな領域も視野に入れた課題解決に取り組む姿勢は、研究の質的向上に寄与している。 AI 技術の急速な発展を踏まえ、人間の知性・感性との関係性を再考する研究は重要視されており、新たな知見の創出を期待する。また、先端研は社会実装を伴う実践的研究が進展している点も肯定的に評価する。
2	人事体制	事務部門と研究部門が均質に連携し成果を生み出している点を評価する。 障害者雇用は、資金確保の面で、民間・行政ともに厳しい状況にある中、先端研の取り組みは先駆的意義を有する。また、これらの成果を関係省庁と共有し、日本におけるインクルーシブな人材活用モデルとして発信する事が求める。
3	財務体制・社会連携	自治体を通じた学術成果や STEAM 教育の実施は、社会との知の共有が着実に進展している点として評価し、社会共創を重視した取り組みを継続すべきである。また、社会事象を多様な専門家が総合的に考察し、特定分野に偏らない判断を行う姿勢は重要であり、総合知に基づく社会実装を推進することを期待する。

4	教育	「デザイン思考からアート思考へのシフト」を国際的に発信することは大きな意義を有する。戦後におけるデザイン概念の転換や感性価値創造イニシアティブ、さらに STEM・STEAM 教育の歴史的展開を踏まえると、幼児期からの STEAM 教育の重要性は一層明確である。また、アートは創造そのものであり、従来のデザイン概念を超える新たな教育的枠組みの構築が求められる。
5	広報・研究発信	最先端の成果を積極的に国際発信することは重要である。最先端の「知」の発信は最先端の情報を受け取るために不可欠であり、正確な情報の発信と受信を行う体制を求める。また、風洞の歴史的背景を将来の先端性へと結びつける視点で発信し、研究所の独自性を示すことの重要性も示された。さらに、社会への発信力強化に向け、サイエンスコミュニケーションを専門領域とし新たな職域の創出を期待する。

Ⅱ. 評価の分析

研究力、人事体制、財務体制などに対する助言ならびに評価としての観点から、内容を項目別に整理した。

分析項目	内容
評価事項	優良な、あるいは順調に進行していると評価された内容のもの
検討事項	事業推進にあたり検討するものとして助言をいただいたもの
付帯意見	事業推進にあたり念頭に置くべき事柄として助言のあったもの

○研究力

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
研究力	知性と感性を掛け合わせた研究が深みを生み、先端研ならではの議論が研究活動を豊かにしている。 AI を活用した社会実装型研究が進展しており、実践的成果が認められる。 専門集団が異分野融合して課題に取り組む姿勢は先端研の強みである。	AI と人間の知性・感性の関係性を再考する研究の深化が求められる。	先端とは社会に貢献することであり、人類普遍の価値観を踏まえた研究が求められる。 異分野連携ラボや議論の場のデザインは優れており、相手を論破しない対話の文化を維持すべきである。

○人事体制

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
人事体制	事務部門と研究部門が均質に連携し、成果を生み出している点を評価する。	法定雇用率引き上げを見据え、研究成果の共有や、障害者雇用の促進を支援するための資金確保が必要である。	

○財務体制・社会連携

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
財務体制・社会連携	自治体を介した学術成果の発信と STEAM 教育の社会共有が着実に進展しており、高く評価する。	社会事象を多様な専門家が総合的に考察し、特定分野に偏らない判断を行う体制が必要である。	社会共創を重視した取り組みを継続し、地域社会との連携をさらに強化すべきである。

「今年度の委員コメントには、財務体制に関する直接的な指摘や助言は見られなかった。」

○教育

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
教育	デザイン思考からアート思考へのシフトを評価する。	幼児期からの STEAM 教育の体系化が求められる。	アートは創造そのものであり、従来のデザイン概念を超える教育枠組みの構築が必要である。

○広報・研究発信

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
広報・研究発信	学術の在り方、STEAM 教育など、自治体を通し、一般市民との共有がわかりやすい形で行われている。	AI 翻訳の限界を踏まえ、正確な情報発信・受信の体制整備と要員育成が必要である。 「デザイン思考からアート思考へのシフト」の国際的な発信を求める。 サイエンスコミュニケーションを専門領域として位置づけ、新たな職域を創出することが有効である。	風洞の歴史的背景を踏まえ、過去の蓄積を将来の先端性へと結びつける視点で発信すべきである。

以 上

【参考資料】

【ボードメンバー】

氏名	職名
浅川 智恵子	日本科学未来館館長、IBM フェロー
小泉 英明	株式会社日立製作所 名誉フェロー
澤 和樹	東京藝術大学 名誉教授、元学長
田中 邦裕	さくらインターネット株式会社 代表取締役社長
土井 美和子	情報通信研究機構 監事
中島 さち子	株式会社 steAm 代表取締役、音楽家(ジャズピアニスト)
久元 喜造	神戸市長
増田 寛也	野村総合研究所 顧問
武藤 敏郎	株式会社大和総研名誉理事

【先端研メンバー(*はオブザーバー)】

氏名	職名
杉山 正和	所長、教授(エネルギーシステム分野)
岩本 敏	副所長, 教授(極小デバイス理工学分野)
稲見 昌彦	副所長, 教授(身体情報学分野)
近藤 武夫	教授(社会包摂システム 分野)
角野 浩史	教授(地球環境化学分野)
中井 遼	教授(国際比較政治変動分野)
廣井 悠	教授(減災まちづくり 分野)
星野 歩子	教授(細胞関連医科学分野)
伊藤 恵理	教授(航空宇宙モビリティ分野)
近藤 高志	教授(高機能材料分野) *
牧原 出	教授(行政システム分野) *
小枝 政稚	事務長
中村 正俊	戦略推進室長
湯本 道明	戦略推進室、特任教授